

和歌山大学岸和田サテライト事業報告
(2022 年度)

目指す姿Ⅰ 高等教育機能を発揮している

Ⅰ 高等教育事業

【Ⅰ-Ⅰ】 大学授業の開講

和歌山大学岸和田サテライトでは、本学が有する高等教育機能を活用して、地域課題の探求および社会人の学び直しやスキルアップなど、多様な学習ニーズに即した学部開放授業と大学院経済学研究科授業を開講してきた。

【Ⅰ-Ⅰ-Ⅰ】 高度職業人養成型授業の開講

<大学院経済学研究科授業>

(前期)

科目名	担当教員	受講者数		
		大学院生	科目等履修生	合計
会社法	経済学部准教授 清弘 正子	4	1	5
地域調査法	経済学部准教授 藤田 和史	7	2	9
労働経済論	経済学部准教授 岡田 真理子	5	2	7
管理会計論	経済学部准教授 藤原 靖也	17	1	18
合計		33	6	39

- ① 労働経済論第3回を除き、対面とオンラインのハイブリッドで実施されている。
- ② 労働経済論第3回は、教員に新型コロナウイルス感染症の濃厚接触の可能性が生じたためオンラインのみで実施した。
- ③ 対面参加者は、各回1～3名程度で推移した。

(後期)

科目名	担当教員	受講者数		
		大学院生	科目等履修生	合計
憲法	経済学部教授 森口 佳樹	1	3	4
国際経済学	経済学部准教授 岡部 美砂	1	1	2
交通政策	経済学部教授 辻本 勝久	6	1	7
通商政策	経済学部准教授 藤木 剛康	4	1	5
合計		12	6	18

- ① 経済学研究科の2021年度からの方針により、南海浪切ホールでの対面授業の開講に加えて、対面授業のオンライン同時配信を継続して実施した。

【1-1-2】地域課題探求型授業の開講

【1-1-3】文化・教養型授業の開講

<学部開放授業>

(前期)

科目名	担当教員	受講者数		
		学部生	学部開放 受講生	合計
【地域課題探求型】 地域観光戦略論B (全6回)	経済学部准教授 藤田 和史ほか5名	15	13	28
【地域課題探求型】 現代社会の教育課題 ～在住外国人の現状と課題～ (全3回)	国際イニシアティブ基幹日 本学教育研究センター教授 長友 文子ほか1名	15	6	21
【地域課題探求型】 SNSと子どもの世界 (全3 回)	教育学部教授 豊田 充崇	15	3	18
合計		45	22	67

(後期)

科目名	担当教員	受講者数		
		学部生	学部開放 受講生	合計
【文化・教養型】 ポストコロナ社会の心身と暮らしを 考える	経済学部教授 阿部 秀二郎ほか5名	15	6	21
【文化・教養型】 災害の文化と地域の祭礼	システム工学部准教授 平田 隆行ほか5名	15	17	32
合計		30	23	53

① 各科目の成果

「地域観光戦略論B」は、2021年度の「地域観光戦略論」の内容を引き継ぎ、泉州地域に有効な観光戦略の立案を最終目標として、複数の担当教員によるオムニバス形式で開講した。地域観光の推進母体であるKIX泉州ツーリズムビューロー、大阪府内の中小企業の現状に詳しい大阪産業経済リサーチ&デザインセンターや和泉山脈などもその一角を占める「葛城修験日本遺産」の活用推進協議会事務局などからゲストスピーカーを迎えた。受講生は授業を通し、戦略立案に必要な知識・技能を獲得し、グループ単位で観光戦略を作り上げて全体共有、さらに議論を通してそれを改善することができていた。受講者からは、「観光を通じた地域活性化について考えることをきっかけとして、自分の地元についてももっと詳しく知ってみようという気持ちになった。」といった意見が聞かれた。



「現代社会の教育課題～在住外国人の現状と課題～」では、泉州地域の外国人の就学や学習環境に関わる諸問題を、現状の理解、共生の視点から捉え直した。この問題に関して第一線で活躍されている岸和田市国際親善協会や和歌山信愛女子大学からゲストスピーカーを迎えて、臨場感あふれる現場の生の声を届けた。社会人と学生を交えたグループワーク形式の講義も多く、参加者からは「普段関わることのない社会人の方ともお話でき、より視野を広げることのできる機会となった。」「学生、社会人皆が発言できる場であった。受講していて、とても楽しい授業だった。」等の感想が聞かれた。一方で、市職員や社会人が都合をつけやすいようにと、全6回と比べて、期間の短い全3回のプログラムで提供したが、「このテーマについてもっと深く学びたかった。」と残念がる受講者も見られた。また、岸和田市職員1名が受講した。



「SNS と子どもの世界」は、岸和田市教育委員会学校教育課の指導主事をゲストスピーカーに迎え、子どものSNS 利用について、実例を交えてお話いただいた。最終回では、参加者が作成したレポートを発表し、話し合い、気づきを共有した。「わかりやすい授業で、また ICT に関連した教育の現状を詳しく知ることができて勉強になった。」や「子どものゲーム依存が他人事ではなくなっていると気づくことができた。また、自分が親世代になった時にこの授業で学んだ知識を活用していこうと感じた。」などの感想が寄せられた。



「ポストコロナ社会の心身と暮らしを考える」では、教育学部や経済学部の教員が、オムニバス形式で授業を実施した。パンデミック後の世界において、私たちの心身や暮らしがどのように変化し、その中で私たち自身の有り様をどのようにしていくのかを、社会経済的状況への影響、心身への影響、自分たちを取り巻く関係性への影響の3つの視点から検証した。ゲストスピーカーに、NPO 法人ママの働き方応援隊に所属され、現在乳幼児を育てる母親とその子どもたちや精神障害を患いながらも働いている方とその支援者など、さまざまな立場の方が登壇された。受講者からは、「『コロナ後の世界と私たちの生活』というタイトルの授業を受講したため、似たような授業なのかと思ったが、全く違っていて新たな発見と学びがあった。とても興味深い講義だった。」や「社会人をはじめ学生の方が、課題に対して真面目に考え、発言している姿に感心した。」などの感想が寄せられた。また、岸和田市職員1名が受講した。



「災害の文化と地域の祭礼」では、各地の災害とそれを乗り越えてきた生活文化や祭礼との関係にスポットを当て実施された。受講者からは、「災害と祭礼という全く関係がないように見える2つが、実はとても深い関係にあることがとても印象に残った。」や「防災への比較的新たな視点、特に地域文化に軸足を置いたのは大変よかったですと思います。防災に関する講座にはぜひまた参加したいと思います。」などの感想が寄せられた。また、岸和田市職員1名が受講した。



【1-2】学習環境の充実

【1-2-1】学習環境の充実

① 受講者数に応じた感染症対策

- a) 感染動向や和歌山大学での対応策を参考にして、募集定員を教室定員の6割程度に抑えて募集を行った。授業開始前には、毎回検温、消毒、健康チェックを行うとともに、座席間隔を十分にとった。

② 南海浪切ホールでの学習情報等の提供

南海浪切ホール1階エントランスロビー、2階岸和田サテライト事務室前において、以下の学習情報等を発信・提供した。

a) 和歌山大学に関する学習情報等

- ・ 入試情報（大学案内、入試広報、アドミッションポリシー）
- ・ 募集要項（一般入試・学校推薦・学校スポーツ推薦入試・社会人特別入試・帰国子女選抜など）
- ・ 岸和田サテライトの授業科目、わだい浪切サロンの開催情報など
- ・ 紀伊半島価値共創基幹のイベントの開催情報、紀要など

b) 岸和田市に関する学習情報等

- ・ 岸和田市、岸和田市立図書館、岸和田市社会福祉協議会、岸和田市立公民館、中央地区公民館、岸和田市国際親善協会などのイベント情報や機関誌など

c) 連携している他大学のイベント情報

- ・ 大阪公立大学や桃山学院大学のイベント情報

③ 新規導入されたフリーWi-Fiの周知

2022年10月より南海浪切ホールに導入された浪切Wi-fi（フリーWi-fi）の詳細を受講者に配布、掲示し、授業中の調べ活動等に活かせるよう周知した。その結果、授業中に大学生を中心に配布資料をパソコンで確認したり、グループ発表にWeb検索を用いてテーマを深掘りしたりする姿がよく見られるようになった。

目指す姿Ⅱ：市民の生涯学習活動をサポートしている

2 生涯学習機会の提供

【2-1】わだい浪切サロンの充実

【2-1-1】継続実施と新たな展開

① 開催回数と方式

a) 2022年度は例年通り、計10回開催した。開催方式は、全10回とも南海浪切ホールでの対面と、その様子を生配信するオンラインを併用したハイブリッドで実施した。

② 年間プログラム

a) 和歌山大学の4学部や各センターを中心に、社会情勢の変化や地域ニーズにマッチしたバランスのとれたテーマと講師を選定した。

b) 本学教員が7回、連携先の他大学教員が2回、本学博士課程の大学院生が1回登壇した。

c) 2月、8月を除く毎月第3水曜日の19時から20時30分に定例開催した。

No.	日程	テーマ	話題提供者	参加者数 *1	満足度 *2
135	4月20日 (水)	田楽躍りと泉州大津村の田楽法師	紀州経済史文化史研究所 准教授 吉村 旭輝	対 10 オ 22	90%
136	5月18日 (水)	地域と観光 - 岸和田の未来を考える -	観光学部准教授 竹林 浩志	対 13 オ 33	82%
137	6月15日 (水)	アルプスに生まれた“スイスのワインと食”知られざるその魅力	観光学研究科博士前期課程 スイスワイン研究家 井上 萬葡	対 22 オ 55	88%
138	7月20日 (水)	日頃からソフト防災で備えよう～アプリで災害対策～	システム工学部教授 吉野 孝	対 15 オ 47	92%
139	9月21日 (水)	月と太陽とカレンダーの不思議な話 -なぜ、2月は28日までなのか?!-	クロスカル教育機構講師 佐藤 祐介	対 26 オ 44	87%
140	10月19日 (水)	日本人なら知っておきたい日本語の面白さ-外国語と比べるとそのユニークな世界が見えてきた!-	教育学部准教授 西山 淳子	対 34 オ 45	75%
141	11月16日 (水)	いま見過ごせない食卓の危機!～農と食をつなぐもの～	食農総合研究教育センター 教授 岸上 光克	対 23 オ 43	81%
142	12月21日 (水)	新しい福祉が始まる 増進型地域福祉への展開	桃山学院大学教授 小野 達也	対 18 オ 27	93%
143	1月18日 (水)	生体防御の最終兵器“抗体”: コロナ・ワクチンから抗体医薬まで	大阪公立大学特任教授 藤井 郁雄	対 16 オ 41	89%
144	3月15日 (水)	今振り返る災害の記憶 ～室戸台風が岸和田に残した爪痕とは?～	クロスカル教育機構准教授 橋本 唯子	対 22 オ 30	86%

*1：対＝対面参加、オ＝オンライン参加

*2：アンケートで、講演内容に非常に満足、おおむね満足と回答した参加者の割合（％）

③ 全体の傾向

a) 参加者数

- ・ 参加者総数は 586 名で、1 回あたりの平均参加者数は 58.6 名で、2021 年度の参加者総数 370 名、1 回あたりの平均参加者数 37.0 名と比べると、大きく増加した。全 10 回、全て対面とオンラインのハイブリッド形式で開催され、対面での参加者総数は 199 名、オンラインでの参加者総数は計 387 名であった。

b) 年齢層・職業

- ・ 「10 代～50 代」の参加率は全アンケート回答者の 39.1%で、2021 年度の 51.9%を下回り、もともと参加者層の多くを占めており、コロナ禍で減少していた 60 代以上に増加がみられる。2022 年度後半には、複数の 60 代以上の参加者から「最近になってオンライン配信アプリの扱いに慣れてきたので、オンラインで参加をしてみようと思った。」や「コロナが落ち着いたので、久しぶりに対面参加してみようと思った。」などの声が聞かれた。このような変化が年齢構成に影響したことが予想される。
- ・ 全参加者の職業別の内訳では、会社員が 25.4%、公務員が 16.8%、学生 2.8%、自営業が 10.5%で、会社員と公務員を合わせると、全体の約半数を占めた。

c) 居住地域

- ・ オンラインのみの開催が 8 回、オンラインと対面のハイブリッド開催が 2 回の 2021 年度には、全アンケート回答者の 56.5%が大阪府内の忠岡町以南から参加した。全 10 回をハイブリッド方式で開催した 2022 年度は、対面開催の増加に伴い、57.9%に微増した。上記エリアを除く近畿圏（大阪市、堺市、泉大津市、和泉市、奈良県、兵庫県、和歌山県など）からの参加は 29.4%と、2021 年度よりも 6%近く減少したが、参加者総数が増加しているため、実質的には人数は増加している。その他の区域（東京都、香川県、鹿児島県、スイスなど）は 9.1%で、1%ほど増加した。

d) 満足度

- ・ 「大変良かった・良かった」と答えた人の割合は 85.7%で、2021 年の 87.4%から少し下落した。不満足な理由として、多く挙げられていたのが、「講演時間が短く、聞きたい内容を、十分に聞けなかった。」や、「もっと専門的な内容を期待していた。」というものであった。
- ・ オンライン方式での開催に配慮して、当日午前中にはオンライン受講方法の再案内とともに、講義資料を事前に配信した。
- ・ 講師には、申込者の属性情報（年齢層・居住地域・事前質問等）を共有し、多様な参加者に配慮した運営を心掛けた。

④ 本学教員等による話題提供

【第 135 回】「田楽躍りと泉州大津村の田楽法師」では、泉大津に伝わっていた田楽をテーマに、広義と狭義の田楽の違いから、その歴史と変遷についてなど、普段あまりなじみのない田楽というものを、基本から丁寧に語っていただいた。「身近なところに歴史を感じることができ、新しい発見でした。」や「『田楽躍り』発祥の背景や変遷、時代考証、現在の類似する祭りの紹介がよかった。」などの感想が寄せられた。



【第136回】「地域と観光—岸和田の未来を考える—」では、一般市民も含めて観光の素材であるからこそ、観光は誰か任せではなく、自分たちのまちについてそれぞれが知って、協力していかなくてはならないと話していただいた。また、岸和田市職員に市制施行100周年記念事業である「竹まつり」の取り組みを紹介していただいた。「手段として観光を使う、さまざまなモノ、一般住民までも観光に含まれるというのは、たとえば良くないですが、目からうろこでした。こうした視点でわがまちを見直したいと思いました。」「市民が出来る観光振興、行政が考えるべき観光振興の両面から考える機会をいただきました。大変おもしろかったです。」などの感想が寄せられた。



【第137回】「アルプスに生まれた“スイスのワインと食”知られざるその魅力」では、普段あまり手にとることがないスイスワインや、チーズ、それを使った料理の味や、文化的背景、そしてそれと密接に結びついた観光について、幅広く語っていただいた。「葡萄の品種が色々あることに驚きました。ワインの歴史の古さ、スイスの先進的な取り組み、景観美、ワインとチーズの豊かな結び付きなど、興味深かったです。」「普段あまり手にとることがないスイスワインについて、チーズの知識と共にとても興味深い内容でした。また次回を楽しみにしております。」などの感想が寄せられた。



【第138回】「日頃からソフト防災で備えよう！～アプリで災害対策～」では、防災にまつわるいろいろな数字をクイズ形式で問いかけるとともに、先生の研究室で開発された防災に役立つさまざまなアプリを紹介していただいた。「『システム関係は少し難しそう。私にわかるかな』と思っていましたが、とてもわかりやすかったです。いろいろ紹介いただいたシステムを使ってみようと思います。とても勉強になりました。」「お話がテンポ良くかつ素人にわかりやすく、楽しく学ばせていただきました。地元自治会で地図作りのワークショップをぜひ取り入れたいと思います。」などの感想が寄せられた。



【第139回】「月と太陽とカレンダーの不思議な話—なぜ、2月は28日までなのか?!—」では、私たちに身近なカレンダーの話、暦の歴史、月見や七夕などの行事と天体の位置関係などを絡めて話していただいた。「暦についてはそれなりに知っていましたが、今日はさらに多くのことを知ることができて、勉強にもなりましたし、とても楽しかったです。」「天文と暦にまつわる幅広いお話で、それぞれの分野の窓からのぞき見させていただいた感じを受けました。とても面白かったので、可能ならアーカイブ配信でもう一度見たいです。」などの感想が寄せられた。



【第140回】「日本人なら知っておきたい日本語の面白さ—外国語と比べるとそのユニークな世界が見えてきた!—」では、漫画などに見られる日本の文化に根ざした表現が、なぜ笑えるのか、どの部分が名セリフなのか、英訳するとどのような表現になるのか実際の漫画を例にして言語を類型化し、日本語と外国語の表現を比較しながらお話いただいた。「日本語の奥深さに感動しました。新鮮でした。私たちが普段何気なく使っている日本語を、他言語と比べることで少しユニークなところが浮き出てきて、おもしろいと思いました。似ているようで似ていないところがあったり、まったく違うところがあったりと、さまざまな部分が知れて良かったと思います。」「素材を漫画など身近なものを使って説明されているのが、聞きやすかった。いままでの自分に持っていなかった視点の提供がなされていて興味深かった。」などの感想が寄せられた。



【第141回】「いま過ごせない食卓の危機! ~農と食をつなぐもの~」では、食糧危機や日本の食文化の特徴や実情、そして世界の食糧問題まで、食と農にまつわるさまざまな話題を、わかりやすく、楽しくお話いただいた。「おもしろく食について学ばせていただきました。ありがとうございます。少しでも『食』について考え、需給率を上げるため、いろいろ実践していきます。」「知らないことを知ることの楽しさを感じられたひとときでした。また『知識』から『行動』へと、行動することの大切さをおっしゃっていたのが個人的に心に響きました。本日の講演からとても良い刺激を受けたように思います。」などの感想が寄せられた。



【第144回】「今振り返る災害の記憶~室戸台風が岸和田に残した爪痕とは?~」では、室戸台風の被害状況を記した資料や災害の伝承碑などから、災害の歴史を振り返り、災害時の対応についてお話いただいた。対面22名、オンライン30名の計52名が参加した。参加者からは、「とてもわかりやすく、優しい口調でお話いただき、非常に勉強になりました。」「防災は過去の歴史を知ることから始まると、再認識しました。」「災害の記録・記憶をどう今後に生かすか考えさせられました。地域においても少しずつでも何かしていきます。」「何となく頭に入っていた室戸台風が、具体的な事実を示して知ることができ、ありがたかったです。また後世に伝えるための資料保存もお伝えいただき、災害に備える別の側面も示していただき、貴重なお話でした。」といった感想が寄せられた。



⑤ 大阪公立大学との連携事業

【第143回】「生体防御の最終兵器“抗体”：コロナ・ワクチンから抗体医薬まで」では、皮膚、粘膜、免疫といった生体の防衛システム、また、免疫システムのメカニズム、それを利用した抗体薬、コロナ治療薬についてお話いただいた。「大変わかりやすく説明いただきました。少しでも知見を得ながらコロナに立ち向かいたいと思いました。」「時流に沿った講座内容で良かったです。多種多様な情報がある中、ワクチン接種を好まない方がおられますが、今回のような正しい情報を教えていただけることで、お客様にワクチン接種を促せるきっかけづくりにもなりそうです。」などの感想が寄せられた。



⑥ 桃山学院大学との連携開催

【第142回】「新しい福祉が始まる～増進型地域福祉への展開～」では、福祉の現状とその経過をたどりながら、社会福祉が地域へと展開していく一方、まだ福祉にはマイナスイメージがあることや、「増進型福祉」への転換の必要性について、また「増進型福祉」とは、マイナスからゼロにするのではなく、皆にとってより良い理想の実現を目指すものであると、お話をしていただいた。「増進型地域福祉の考え方は素晴らしいです。理想を掲げどのような状態、どのようにしたいかという思考回路は参考になりました。福祉以外の日常のすべてのことに適応できると感じます。この考え方をこれから生かしたいと思います。」や「福祉についての新たな視点が提供されて、非常に有意義に思いました。」などの感想が寄せられた。



目指す姿Ⅲ：地域課題の発見と解決・大学の知的資源と住民の交流をサポートしている

3 地域研究事業

- ① 教育研究アドバイザー会議での検討
教育研究アドバイザー会議を開催し、主権者教育の課題や方向性について話し合った。そして、主権者教育だけに拘らず、地域課題に基づいて、幅広く新たな地域研究事業の可能性を検討していくことを確認した。

4 各種連携

【4-1】各種連携

【4-1-1】学校教育分野の連携促進

- ① 岸和田高校との連携
岸和田高校からの依頼を受け、第20、21回文理課題研究発表会に、岸和田サテライトから代表の藤田和史准教授ほか1名が参加し、発表会の講評と、探究学習全般についての指導や助言を行なった。

② 岸和田市国際親善協会との連携

2022年度前期学部開放授業「現代社会の教育課題」にゲストスピーカーとして出講していただき、岸和田市の学校で学ぶ外国にルーツを持つ子どもたちの現状や支援の様子について語っていただいた。それを契機として、和歌山大学紀伊半島価値共創基幹主催で11月に開催された「～地域の力を活かそう～ 外国につながる子どもへの支援シンポジウム」にも、参加いただき、外国にルーツを持つ子どもたちに対する支援の実践報告をしていただいた。



【4-1-2】生涯学習分野・まちづくり分野の連携促進

① 岸和田市との連携

a) 課題の共有

2023年度の学部開放授業の計画に際して、岸和田市における「観光」「防災」などの課題をより反映した授業テーマや、担当教員を選定するために、2022年8月に岸和田市観光課、危機管理課、企画課、和歌山大学紀伊半島価値共創基幹、岸和田サテライトを交えて、会議を実施した。それを反映して2023年度に、岸和田城を素材として観光戦略を立案する実践的な講座「地域観光戦略論C」、防災時の避難所などにおける実際の身の処し方を実践的に考える「大阪南部の地域防災」を開講することを決定した。

b) 地域連携フォーラムの開催

12月17日（土）に岸和田市主催、和歌山大学・岸和田市社会福祉協議会・社会福祉法人 和秀会協力の地域連携フォーラム「介護を快護に～する人・される人、互いに気持ちいい環境づくり～」を実施した。当日は雨天にもかかわらず、50名の参加者が来場した。男性介護者も含めた、家族介護者が肯定される場作りの重要性、介護事業所の働きやすい環境を作る取り組み、家族介護者の介護のつらさやサービスの質の見極め方、介護離職者を減らす取り組み、岸和田市の介護者支援の取り組みなどが共有された。



② 大阪公立大学、桃山学院大学との広報の相互連携

9月9日（金）に大阪公立大学地域連携センター学術研究支援部社会連携課と、28日（水）に桃山学院大学地域連携課と打ち合わせを行い、わだいな浪切サロンやアカデミックカフェ、公開講座などのチラシを相互に南海浪切ホール、I-site なんば、桃山学院大学エクステンション・センターに配架するなど、広報面で協力することを合意した。

③ 岸和田バリアブレイクプロジェクトとの連携

車いすユーザー、さまざまな障害がある人、乳幼児の保護者にもやさしい岸和田祭見物マップづくり、車いすユーザー向け試験曳き見物ツアーの企画を進めていくことを目指した標記のプロジェクトから、岸和田サテライトに和歌山大学学生の試験曳き車いすユーザー向け見物ツアーのボランティアへの協力依頼があった。岸和田サテライ

トを通じ、紀伊半島価値共創基幹を経て、募集したところ9月16日（金）の試験曳きの際に、2名の和大学生が参加した。

④ 岸和田商工会議所との連携

「きしわだ所報」に本学教員による以下の連載を実施し、市内の事業者に対する情報提供を継続的に行った。同時に、わだい浪切サロンの告知を掲載して周知した。

期間	テーマ	執筆者
2021年11月～2022年4月	変わるアメリカと世界 トランプからバイデンへ	経済学部 准教授 藤木 剛康
2022年5月～9月	宿泊業と顧客満足	観光学部 准教授 竹田 明弘
2022年10月～2023年4月	中国政治・経済・社会の来し方 行く末	経済学部 教授 金澤 孝彰

⑤ 岸和田市立図書館との連携

a) お堀で一箱 古本市

8月上旬に岸和田市立図書館から、11月6日（日）開催予定の「お堀で一箱 古本市」の打ち合わせ会で、和歌山大学の学生のボランティアの募集に協力してもらえないかとサテライトへの依頼があった。基幹のホームページの相談窓口を紹介するとともに、授業やサロンでチラシを配布したところ、図書館の担当職員から和歌山大学生3人がボランティアとして応募してきたとの連絡があった。

b) 岸和田市立図書館（本館）の岸和田サテライト紹介ブース
サテライトの提案により、2019年度より岸和田市立図書館（本館）2階にわだい浪切サロンや学部開放授業の案内、その内容に関連する図書の紹介を行うブースの設置をしていた。2022年度も継続して設置にご協力いただいた。



【4-1-3】連携ひろば「ワダイ×キシワダ」の運営

本年度、報告するべき事項は特にない。

【4-2】岸和田サテライト友の会への支援

① 講演会の開催

a) 和歌山大学主催友の会共催夏季講演会

8月28日（日）、友の会メンバーによる司会で、教育学部此松昌彦教授に「岸和田周辺ではどんな災害が想定されていますか。どんな備えをしますか」という演題で、ハザードマップを活用しながら、地震や津波、洪水などからどのように身を守るのか、お話いただいた。会場の南海浪切ホール多目的ホールには、小学生を含めた40名程度が参加した。この様子は、テレビ岸和田のニュース番組「DAIRY NEWS」で取り上げられた。



b) 和歌山大学主催友の会共催冬季講演会と防災ゲーム

2月25日（土）冬季講演会を実施した。当日は、3名の小学生以下の子どもを含む28人が参加した。参加者は、市の危機管理課小口修平参事の防災講座を聴き、社会福祉協議会の藤澤氏と沖藤氏のコーディネートによる防災ゲーム「これ持ってぐ〜」

を体験した。また、半数程度が引き続きその後の説明会に参加した。友の会は、1部、2部の計画立案、司会やゲームの各グループのファシリテーターをつとめるなど、積極的に取り組んだ。また、友の会の発案で、トルコ・シリア地震への募金を実施され、6,701円が集まった。

② 幹事会の開催支援

2022年5月、7月、2023年1月の友の会幹事会に地域連携コーディネーターが出席しサテライト事業に関する情報共有を行った。

③ 防災士養成講座の受講支援

災害科学・レジリエンス共創センター主催の「防災士養成講座」の情報提供を行い、学部開放授業受講生から4名の講座受講に繋げた。友の会で防災士を取得したメンバーは、「災害の文化と地域の祭礼」の受講生を対象として、防災士試験対策講座を自主的に企画し、実施した。

④ 秋季ええ！きまえ市ブース出展とアンケートへの協力

11月13日（日）に、岸和田駅前通り商店街振興会主催の、秋季ええ！きまえ市（どんチャカフェスタ同時開催）に和歌山大学岸和田サテライトのブースを出展し、サテライト友の会と共同して、サテライトや友の会の広報活動を実施した。その際、友の会の防災アンケート実施に協力した。



目指す姿Ⅳ：持続可能な連携組織となっている

5 組織体制・財政

【5-1】戦略的な組織体制

【5-1-1】地域連携推進協議会の充実

① 連携事業の進行管理

地域連携推進協議会は、5月に実施した。企画運営委員会は、4月・8月・10月・3月の計4回実施した。調整会議は、4月から3月までの計12回実施した。

【5-1-2】大学の連携体制の強化

① 紀伊半島価値共創基幹内での情報共有

紀伊半島価値共創基幹の定例会議に出席し、価値共創オフィスや各センター・サテライトとの間で定期的情報共有を行った。

【5-2】事務局機能の充実

① 地域に密着した活動の推進

岸和田市やその関係機関によるイベントに参加することで、タイムリーな地域課題情報を入手した。

② 多様な主体の参画によるネットワーク形成

大阪公立大学および桃山学院大学との連携事業の実施を通じて、大学間連携の効果的な方法について検討した。

- ③ 地域連携コーディネーター研修の受講
和歌山大学紀伊半島価値共創基幹にて開催された地域連携コーディネーター研修に岸和田サテライト地域連携コーディネーターが参加し、地域課題により効果的に取り組むにはどのような手法が考えられるかをワークショップ形式で検討・発表した。
- ④ サテライトオフィスへの各種問い合わせ
外部からの個別相談や本学教員の紹介依頼のほか、岸和田サテライトに配架する募集要項に関する問い合わせ等に対応した。

各種問い合わせ件数	44件
-----------	-----

(注) 関係機関との定例連絡、友の会との情報共有、受講者との事務連絡を含まず。

【5-3】財政運営

- ① 外部資金獲得に関する検討
調整会議において、民間からの寄付金等の外部資金の獲得の可能性やその利用について話し合った。例えば、企業からの聞き取りをしていく中で、ニーズを汲み上げ、民間の寄付を受けて、フォーラムやリカレント講座などの支援する事業を立ち上げることができないか、継続して検討していくことを決定した。

【5-4】効果的な広報活動

- ① インターネットによる情報発信
紀伊半島価値共創基幹と連動したサテライトホームページの定期更新を行った。また、Facebook、メールマガジン等を有効活用し、タイムリーな情報発信を継続した。Peatix、こくちーズプロ、Event Bank、防災 JAPAN、WAM NET などの複数の無料広告媒体を活用し、わだい浪切サロンや各種講演会、学部開放授業などのイベントの案内を掲載し、一定数の新規参加者獲得に成功した。また、2023年度の学部開放授業受講生募集の際には、新たな試みとして広報動画を作成し、サテライトのホームページなどで紹介した。



- ② 南海浪切ホールでの広報活動
情報コーナーへのパンフレット等の配架を行うとともに、浪切友の会会報「ナミトモ」への広告掲載を継続した。

【6-1】事業立地

- ① オフィス環境の充実と利便性への取り組み
大阪公立大学サテライト施設 I-site なんばを訪問し、アカデミックカフェなどの実施状況や、実施環境などを視察し、オフィス環境をより充実させるための情報収集を実施した。

以上

